

令和7年度 第2回 府市トップミーティング

日時：令和7年9月3日（水）10：15～11：30

場所：京都府公館レセプションホール

○西脇知事

それでは時間になりましたので、令和7年度の第2回目のトップミーティングを始めさせていただきます。まずは松井市長をはじめ、京都市の皆様、京都府公館までご足労いただきありがとうございます。

昨年の第1回から数えますと5回目ということになりまして、この間、この場で議論したことが迅速に予算化、また、様々な施策として実現していて、府市協調の成果も徐々に見え始めているのかと感じております。

例を申し上げますと、昨年の第1回で合意しました「府立高校と市立高校の合同の探究学習」。この取組についても、「京都探究エキスポ」を12月21日にして、非常に好評だったというふうに思っております。今年度も、引き続きやっておりますけど、今年度は特に「京都探究クエスト」と称してですね、高校生の皆さんに京都市内は西芳寺や清水寺で、府域では智恩寺で歴史とか文化とか、あと環境とか、様々な多層的な要素を学び自分自身と向き合っていくというようなプログラムをやっております、それも、最終的には「京都探究エキスポ」の第2回目のところに生かされていくということであります。

また、半導体産業について言いますと、令和7年度当初予算。府市ともに予算化をして、ビジネス機会の拡大とか、あと国内外のプレゼンスの強化というのは取り組んでおりますが、たまたま先月末ですが、文部科学省の「半導体人材育成拠点形成事業」に、これは阪大が拠点校ですけれども、京都大学、それから京都工芸繊維大学もメンバーになっています、関西5大学で取り組みます人材育成事業が採択をされたということで、こうした形でも成果が繋がっておりますので、本日もそうした具体的な成果に繋がるような議論ができればと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、市長からも開会にあたり一言お願ひいたします。

○松井市長

今日は、すばらしい京都府の公館をお借りして、京都府の皆様方にも大変なご準備、ご尽力いただきまして、府市協調、それこそ知事と私の関係もそうですが、府庁の皆様方、市役所の職員がいろいろ連携して準備をしていただいて開催に至りましたことについて、心からお礼申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。

今、知事からお話がありました探究型学習。今度、14日でしたよね。知事と私も、今度は清水寺さん。第1期の方は、それぞれが、天橋立の方と、私は市内の西部の方のお

寺にお邪魔しましたが、今度は、また、知事、市長揃って、探究クエストにもお邪魔するというので、これがまた年末に向けて、府市の探究型学習のさらなる一層の深化に繋がればいいと思いますし、今、お話がありましたように、大学の半導体の共同研究が、文科省の事業として採択されたことも含めて、また京都リサーチパークのところに、大手の外資の半導体の研究所が、誘致・立地が成立したというようなことも含めて、いろんなことで、これは府市だけではなくて、国あるいは産業界の皆さんのご尽力が少しずつ形になっているということについて、私も感謝を申し上げるところです。

そして8月、もう先月になってしまいましたが、五山の送り火。これもトップミーティングで知事と私で連名でですね、全国のヘリコプターの事業者に対して要請をさせていただいておりましたが、これもですね、当日、ヘリの飛行が確認されず、静謐な環境で、おしよらいさんをお送りできたっていうことは大変良かったと思いますし、全国、京都含めてですね、航空事業者の皆さんが我々の要望をしっかりと受け止めていただいでですね、誠意ある対応をしていただいたことに、この場を借りて感謝を申し上げていきたいと思いますし、これからもですね、この伝統行事というものは、やっぱり京都というまち全体がしっかり大切にして、そして、府民・市民の理解、あるいは事業者・団体のご理解もしっかり踏まえてですね、「伝統を大切にするまち」にしていきたいと思っております。

○西脇知事

ありがとうございました。それでは、本日の流れでございませけれども、はじめに資料も配付しておりますけれども、これまでの合意事項であります、「アート」と「映画」についての取組をご紹介します、その後にフリートークをさせていただきたいと思っております。

まず、資料配付してありますけれども、私の方からアートのご説明をさせていただきたいと思います。10月から11月を「京都アート月間」といたしまして、「Art Collaboration Kyoto (アートコラボレーション京都)」と「CURATION≠FAIR Kyoto (キュレーションフェアキョウト)」など、府市のアートイベントを同時期に開催したいと考えております。

相互の割引とか、あとシャトルバスの導入とか、そういうことによりまして、来場者が相互に乗り入れすることができるようにしようということで、相乗効果が生まれることも期待したいというふうに思っております。

また、資料にございますけれども、「京都アート月間」の共通のロゴも新たに作成をいたしました。そこに書いてありますように、1年のうちに月の位置が8の字を描くとか、また、取組が無限に続くことを希望したというようなことでのロゴを。現在ホームページの準備も進めております。併せまして、共通のポスターとかチラシを作成して、一体的な情報発信を図ることによって、京都のアート市場の発信力を是非とも強化していきたいというふうに思っております。

それぞれの具体的なイベント、フェア等につきましては、またその都度ですね、詳細に発表していきたいと思っておりますけれども、いずれにしても、アート月間を「京都をアートで彩る」。そういう月間にしたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。市長の方から、「映画文化・映画産業」についてのご説明をお願ひします。

○松井市長

今の、アートもとても大切なことだと思ひて、しっかり我々も連携して取り組みたいと思ひておりますが、先日、府庁でですね、個別の案件で、「京まふ」とか「Bit Summit」を漫画・アニメ・ゲーム関連を府と市で協調してやるという話をしましたが、今日、お話をしたいのは映画でございます。もちろん関連しておりますが、12月の上旬、2日から7日でしたかね。これは非常にプロの間で評価の高い「京都ヒストリカ国際映画祭」が開催されますが、「京都映画賞」、これ京都市の事業、これが12月21日でございます、これらを一体的にプロモーションするというような事業をしたい。

さらに、そのちょうど間、12月12日から14日、「京まちなか映画祭」というのも開催されるわけございまして、この府の施設である京都文化博物館では、3週間にわたってですね、映画関連の事業が開催されます。

それを機にですね、12月を「京都映画月間」ということで、府の事業、それから市の事業をしっかりコラボして、やっぱり「映画ゆかりのまち京都」でですね、もう一度、映画というものに着目した月間をつくっていきたくと思ひております。

具体的にはですね、これは9月、もう来週、13、14日かな。「京都映画賞野外映画鑑賞会」というのも開催しましてですね、昨年のヒストリカ映画祭でも上映された、そして、日本アカデミー賞作品賞をとった、『侍タイムスリッパ』及び「京都国際学生映画祭」のグランプリ作品を上映する。それから、「京都映画月間」ポスターを京都市域各所にある広報掲示板に12月上旬に掲示するというので、今、申し上げた「京まちなか映画祭」についても一体的に広報していきたいと思ひております。

「京都ヒストリカ国際映画祭」の企画にはですね、「京都映画賞」の優秀スタッフ受賞者が出演する連携企画をつくりたいと思ひておまして、府市が連携しながら、京都の映画産業・映画文化、あるいはその映画を支える様々な映画人の方々をしっかりと、そういう素晴らしい方々のご尽力によって京都映画文化がつけられているということについても、一体となって、きちっと市民の皆さん、府民の皆さんにお伝えするような企画をしていきたいと思ひます。

ぜひ今日、メディアの方々がたくさんいらっしゃいますが、実はこの9月1日からですね、「京都映画賞」の作品賞の投票が始まっております、ぜひ多くの方にこの映画賞というものも知っていただいて、これ会員制なんで、皆さんの投票で受賞作が決まるというものなんで、是非、推し作品への投票を会員になっていただいて、お願ひしたい

と思っております。

このところですね『SHOGUN 将軍』、あるいは先ほど申し上げました『侍タイムスリッパ』、あるいはもう、今年のアメリカのアカデミー賞の日本代表作品ということが決定した『国宝』、今、様々な京都中のいろんなエリアが、聖地巡りということで、非常に京都がたくさん取り上げられている作品であります、京都にゆかりのある作品が注目を集めておりまして、やはり「京都の映画」、あるいは「映画のまち京都」というのをもう1回、しっかり皆さん方に認知していただいて、盛り上げていく絶好の機会だと思っております。映画の聖地ではあるんですが、しかし、映画文化というものをいかに復興していくか、あるいはいろんな先ほど申し上げたような技術者スタッフなんかも含めてですね、この方々の継承というのは非常に大事なことでありまして、映画でいうと、どうしても監督であるとかですね、あるいは主演俳優さんとか、そういう方だけが注目を集めるんですが、本当に美術であるとか、大道具・小道具であるとか、照明だとか、カメラであるとか、様々な技術者が映画というものを作り上げている。

そういった方々、映画を支える方々が、今高齢化が進んでいる中で、映画文化をどう支えていくか、これちょっと最後に、時間があれば私感想で申し上げたいんですが、私は、京都の「学藝のまち京都」というものを支える人材っていうのは、ノーベル賞の研究者みたいな方もいらっしゃるんですが、そうやって、いろんな産業の技術を支えるような方々、職人のような方々がたくさんいらっしゃる。

こういう方々が京都にいらっちゃって、ちゃんとそれが次の世代に繋がっていくような取組を我々としてもしていきたいと思っております、その一環としても、先ほど知事がおっしゃった、アートの面での連携をしていこう、あるいはこの夏から申し上げているような、「コンテンツ産業」っていうんですかね、ゲーム・アニメ・漫画、これも府市協調でやっていこう。映画の面でも、大変、京都府の非常に評価の高い取組と、私ども京都市の取組をコラボしてですね、しっかり支えていきたいと思っております。

○西脇知事

ありがとうございます。私は単に映画が好きだけだと思うんですけど、市長も映画に造詣が深いものですから、一つ、よろしくお願ひしたいと思っております。

一応、これまでの合意事項に関する取組のご紹介につきましてはここで終えたいと思っております、次に、これまでもこの府市トップミーティングで実施しておりますけれども、市長と私とでフリートークの形式で意見交換をして、合意ができるものは合意をするし、ある程度方向性を生み出せるものについては、さらなる検討を深めていくというようなことで進めて参りました。

今回もこれから後は、フリートークという形でお話を進めさせていただきたいと思ひます。

まず、最初はですね、子育て関係のお話でございます。私は知事就任以来、「子育て

環境日本一・京都」の実現っていうのを府政の最重要課題にして、令和5年12月に戦略をつくって、その中の1つの大きな施策として、「京都版ミニ・ミュンヘン」っていうのを昨年度から実施しております。

これ、簡潔に言いますと、ドイツの「ミニ・ミュンヘン」を参考にして、子どもたちが市長選挙もし、ルールをつくり、店舗を運営するという、仮想のまちをつくるものですが、京都版では、子どもたちの自主性、社会の仕組みを知る、そういう効果だけじゃなくて、高校生とか大学生が関わることによって、子どもとの触れ合い、触れ合っただけ機会を提供しているものでございまして、昨年度は、福知山市と八幡市で実施をさせていただきまして、非常に参加した子どもたちからも、また、関わった若者の皆さんからも高い評価を得たところなんです。

今年度は京都市、それから、京都市児童館学童連盟の皆様のご協力をいただきまして、梅小路公園で開催を予定しておりまして、現在すでに参加する子どもたち、高校生、大学生たちがワークショップを行っている最中でございます。今回、京都市で開催予定ということもございまして、この今年度の京都版ミニ・ミュンヘンの取組につきまして、また今後の展開について、市長の方からお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○松井市長

ありがとうございます。「子育て環境日本一」っていう、西脇知事のあるいは京都府の取組について、私は全面的に賛同していて、これは大学の教員時代から京都府は素晴らしい取組をされていると思っていました。そして、その「京都版ミニ・ミュンヘン」というのを早くから京都府が取り組んでおられることは、これも実は、市長就任前から非常に注目していて、「これ何とか京都市でもやってもらえへんかな」、「一緒にやらへんかな」と思っていたんで、今回、こういう形で一緒に梅小路でやれるというのは、大変、私としてはありがたいことだと思います。

今年に入ってからですね、実は京都市域は出生数が、このところぐっぐっと落ちてきたんですが、ちょっとね、やや減少幅が少なくなっている。7月末ぐらいで言うと、去年とほとんど変わらない。でも、全体の少子化の中では同じなんですけど、その中ではやっぱり我々が考えなきゃいかんのは、いろんな取組、「保育士の充実配置」であるとかですね、「第2子以降保育料の無償化」であるとかですね、「安心すまい応援金」であるとか「空き家バンク」であるとか、いろんな取組をしているんですが、私としては非常に大事なものは、「こどもまんなか社会」というのをつくって、子どもたちの学びというのをまち全体を挙げて取り組んでいきたい。

そういう意味では、小学生に主眼を置いたものかもしれないけど、実際そこに中学生、高校生が関わってくる、あるいは大学生が関わってくるという意味で、この「京都版ミニ・ミュンヘン」っていうのは、これも京都市としても、是非とも、府のお力も借りて

ですね、充実させていきたいと思っております。

現にですね、8月4日。先月4日に京都まなびの街 生き方探究館でのキックオフイベントっていうのは、これは例えば、個別のですね、ロームさんであるとかですね、ものづくり企業のOBの方々が、盛んにご協力をいただいて、非常にさっき言った子どもたちの学びを支えるんですけど、そこに中学生、高校生、大学生、そして企業のエンジニアであるとかですね、OBみたいな方々がそれをサポートするっていう取組で、それこそまさに、年代超えて「オール京都」の取組をこういう京都府さんが始められた事業に京都市も乗せていただくことで、これができるというのは非常にありがたいことですし、我々としてはですね、こういう連携をまずやってみたうえでですね、梅小路公園で10月25日にやってみて、それをしっかり見なければいけないと思いますが、私個人の気持ちとしては、こういう多様な主体や、府市が協調する子育て・教育・産業関連施策とも繋がりますんで、これは今後とも、継続して充実させていきたいと思っております。

○西脇知事

ありがとうございました。市長からも非常に前向きに協力いただけるという提案をいただきました。もともと、子育てにやさしい社会、子育てにやさしい京都を実現するためには、これは、行政だけでとてもできることじゃなくて、産官学民の連携が必要だというふうに思っていて、今年7月にも、松井市長にも参加いただきましたけれども、「子育て環境日本一・京都」に向けた産学官民連携の体制として、「京都府子育て環境日本一推進会議」というのを設けてまして、それを開催して、そこでこの間はミニ・ミュンヘンの取組を紹介させていただきました。

ご存じなかった方もいまして、評価も非常に高かったというふうに思っていて、一部、推進会議の構成員の人が、今年度からミニ・ミュンヘンのお仕事体験ブースでの設置協力というようなことも予定しております。

考えてみたら、昨年度の福知山市。当然、地元自治体とか、あと地元の商店街、産業界の方には協力をしてもらったんですけども、できる限り「オール京都」の体制で大きく巻き込んでいくためには、このミニ・ミュンヘンっていうのを1つの核としてですね、参画する舞台、できればもうこれ仮想のまちなんで、実は大人もみんな関係しているところが多いんで、やればいいのかということと、できれば他の様々なイベントとも連携していればいいのかというふうに思っておりますので、これをミニ・ミュンヘンをさらに深化させていきたいというふうに思っております。

そういうことで、これは今年度から既に一部、連携もできるということもございますので、梅小路公園での「京都版ミニ・ミュンヘン」のモデル実施を契機として、多様な主体の参画や府市が実施する子育て、それから教育産業関連施策の連携をさらに強化することによって、「京都版ミニ・ミュンヘン」の取組をさらに「深化」。これは深めるという方の「深化」ですけれども、深化させる。そういうことを、ミニ・ミュンヘンに関

する1つの、本日の合意事項とさせていただきたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○西脇知事

次の話題はですね、「中小企業の人材確保」。当然、京都府内に優れた企業が多いんですが、非常に人手不足ということで、人材の確保に苦勞されています。

中小企業の人材確保に向けた取組に対する支援につきまして、まずは松井市長からお考えをお聞かせいただきたいと思ひます。

○松井市長

はい。今ほどのミニ・ミュンヘンもそうなんですけど、京都のまちの魅力っていうのは、子どもたち、学生、そして企業もですね、地域企業、本当に京都に根づいた企業がたくさんあってですね、それは世界的な企業もあれば、それを支えるような地域企業、非常に質の高い中小企業の存在もあると思うんです。

これはトップミーティングで、何度も話題になったことなんですけど、京都はこれだけ学生のまちでありながら、卒業後、京都府内で就職して働いていただい方がその割にはちょっと低い。17.8%とかそういうぐらいの数字だったと思ひますけれど、ちょっとここ数年で、この2年間は同じ率だと思ひますが、ちょっと下がっている。

やっぱり、学生さんが、全国から来た人が東京を含めて戻って行くっていうのは、一つの自然な流れなんですけど、もう少し京都に定着していただきたいという思ひがありまして、以前から、経済界でも知る人ぞ知る評判の良い、学生の中でも知る人ぞ知る評判の良い事業として、「就勞・奨学金返済一体型支援事業」というのがあって、京都府内に就業した場合、その奨学金の返済について、企業、そして府が支援してですね、サポートするというので、府内就職を促す制度があって非常に評判が良い。

ただ、知っている人が実はまだそんなに多くない。それからやっぱり企業もなかなか大変です。そんな状況の中で京都市としてもですね、利用者は6割が京都市内の事業者ということなんで、京都市としてもこれについて何か支援・サポート・協力させていただけないかなというふうに、今、検討させていただいているところでありまして、今の府の制度、そして企業のその支援実態ですね。要するにその奨学金の返済について、一部企業を肩代わりして、府がそれをサポートしておられる。

これについて、もう一段、その企業の負担軽減をできないか。ひいてはそれは、学生が卒業後、府内就職して、学生の就職後の負担、返済負担を減らすということに府市協調で取り組めないかなというふうに考えておりまして、それができればですね、奨学金の返済負担軽減、これはもう非常に学生の話を聞くと重いものです。それが府内に就職した者について、しっかりそれを応援してですね、市内定着というものを図る。そのために、一步、我々としても、府市協調でしっかりと支えていくというふうに考えてい

きたいと思いますし、それをしっかり制度的に導入できた暁には、ぜひ知事と一緒にですね、経済界の皆さんにも、あるいは学生さんにとっても、こういう制度があるということをご報告していきたくて思っております。

○西脇知事

ありがとうございます。今ほど市長の方から紹介ありました「就労・奨学金返済一体型支援事業」。これ、平成 29 年度から実施しているんですけども、私が知事になったのが平成 30 年。そのときには、議会とかでもですね、一般の方々でも、「制度、非常にいいのに、ほとんど利用されてへんじゃないか」というご指摘を受けてまして、PR に努めているし、当然時代の流れとかに合わせても、制度の拡充にも努めてきてですね、その時に比べたらかなり利用されるようにはなっているんです。

そういう意味では、まさに中小企業の数とか学生の数に比べれば、ニーズがまだまだ潜在的にあるというふうには思っていて、ようやく少し使われるようになったかなという状況なんで、これはもう京都市が、この制度についての周知、活用、利用促進を連携して図っていただけるってことであればですね、これほどありがたい話はないですし、我々も、先ほど言いましたように PR してきましたし、制度改革もしてきましたので、今、現状の利用実態とかですね、あとそれから府内の他の市町村の動向等もありますし、その辺りも、総合的にですね、制度の充実ができるかどうかも含めて、検討したいと思いますが、とりあえず京都市が本格的に利用促進に乗り出したことは極めてありがたいので、今後ともよろしくお願ひしたいというふうに思っております。ありがとうございました。

○西脇知事

次にですね、今の奨学金の話のときにも市長からありましたけど、大学の話がありまして、「大学のまち京都」ということで、大学政策という分野について、これまでもいろんな努力はしてきて、この場でも大学政策についても議論してきました。

例えば、先ほどありました府内定着。これちょっと最近、足元の数字がもともと低いんですけど、さらに低くなっているんじゃないかっていう心配をしています。それとか留学生のビジネス日本語教室の充実で、これは確か市長の方から「文化的なことも勉強したらいいんじゃないか」みたいなこともありました。それから冒頭紹介した府立高校と市立高校の探究学習の充実のところでも、私がこの場でも、その府立・市立高校の連携を高大連携に繋げていこうということで、大学については、様々な議論があるという中でですね。

京都には府立大学、それから工芸繊維大学、理系学部を持っていますし、それから府立医大、医療系があるし、市立芸大、文化系ということで、そういう国公立系の大学も含めて 43 の大学が集積しております、その中でも我々がもう 10 年前の平成 26 年か

ら、工芸繊維大学と府立大学と府立医大、これは公立・国立の垣根を越えて、教養教育の共同化というのは全国初めてしておりますが、この辺ですね、これら教養課程と一緒にやっている3大学とか、あと芸大、その辺りも含めてなんですけれども、どうやって連携を進めていけばいいのかというようなことについて、市長の考えをお聞かせいただければありがたいと思います。

○松井市長

はい。京都は大学のまちであります。京都市は人口144万、大学生の数が15万ということで、10%を超える大学生が活動しているまちであります。それは京都の誇りであり、強みであると思うんですが、同時にやっぱり最近でも、一部の大学が募集停止をされたりとか、大学そのものを閉鎖するという決断をされたりというのがあります。

これから少子化が本格化する中でですね、大学の関係者の皆さんとも意見交換しておりますが、非常に危機的な意識も持っておられます。それはやはり大学のまち京都がこれからはっきり生き残って、若い学生さんたちが学べる、そして学んだあととしっかりこの京都のまちで活躍していただくようなまちをつくるっていうのは、これ本当に我々は危機感を持ってやらなければいけないと思ってます。

その中でですね、やっぱり大事なことは、大学間の協力でありまして、今まさに知事がおっしゃっていただいた、その3大学は教養課程で連携しておられるっていうの私も横で見えてですね、横でというか、我々は行政ですから大学とは別なんですけど、けど、府立の2つの大学、国立の、3大学が連携しておられるというのは非常にいい試みだなと思いました。折しも京都市立芸術大学は、沓掛から崇仁にキャンパスを移してですね、鴨川すぐ横にキャンパスが移ってきた。本当にたくさんの方々のご尽力で、キャンパス移転が実現したわけでありまして、せっかくこの地に来たのであれば、もっと大学間の連携っていうのが、より良い可能性が高まっているんじゃないかと私は個人的に思ってます。

もちろん大学は、それぞれ学問とか教育の自由度を持っておられますんで、あんまり行政が口出しをするのはどうかと思いますけれど、そういう意味でこの3大学に加えて京都市立芸術大学、特に教養課程で連携しているということで教養課程においてその芸術の持つ意味っていうのは非常に深いと思いますんで、何か対話の機会ができないかと、この前小山田学長とも話をしておりましたら、そうですね、一回フラットに大学の学長4人で、もし、他の学長さんが許されれば、小山田先生は焚火というのが非常にご専門なんですよね。なんか焚火でもしながら、焚火ってのはいいんですよ。この話30分ぐらいかかるんですけど。例えば、市役所前で焚火でもしながら、そこに知事とか市長が来てくれはったら、そうやってフラットな場で円陣組んで焚火を囲んで、これからの大学連携の可能性、話してみてもいいんじゃないですかって話になったんですね。

ですから、ちょっとこれ府市トップミーティングで話をするには、やや情緒的な話か

もしもかもしれませんが、そういうところから、意外と大学連携が府とか市が「こうやれ。あれやれ。」とか言う立場でもありませんし、ただ大学で学長さん同士で我々も含めて、本当にフラットに話をしてみることができへんか。たまたま、その4つの大学は鴨川に近いから、「鴨川4ですね」という話を笑ってしまっていて、おそらく今、府の方からもお話をさせていただいて、そういう形で大学連携ができれば、我々、大学コンソーシアム京都というのを持っていて、より多くの大学と一緒に取り組むこともやっていますが、この前そのコンソーシアムの皆さんにも申し上げたんですが、コンソーシアムで全員でやるものもあってもいいし、一部の大学が具体的に戦略的に連携をするというのが同時並行であったらいいんじゃないか。それが、大学のまちである京都の魅力とか強みをさらに強化していけるんじゃないかと思っております、もしよろしければそんなことを、知事、よろしかったら一緒にいかがですか。

○西脇知事

焚火ですね。心が温まるし、ほっこりしますが、とにかく我々も3大学の教養課程の共同化をしてきてですね、これも間もなく10年経つということもあったので、大学連携のさらに進化系という意味においては、まずは芸大がせつかく京都駅前に来られたわけですから。まず、その取組をスタートさせていくために、まずは4大学と府市の担当者の集まる機会を、関係部局が集まる機会を設けてですね、それを設ける機会を目指して、事務的に検討を進めたいと思います。まず、それが焚火という場になるのかどうかも含めてなんですけれども、4大学と関係の我々が集まる機会を設けるという、それを目指して、事務的に検討させていただけたらと思います。

○松井市長

イメージです。

○西脇知事

分かりました。ありがとうございました。

先に進みますけれども、この間の日曜日、京都府では総合防災訓練やりまして、私も府警のところから宮津の会場までヘリで行かさせていただきました。能登半島地震でまさに分かったんですが、孤立集落の発生ということで、やっぱりヘリコプターによる救助・支援というのは必要にされていますし、それからこの間から山火事なんかでもですね、ヘリの重要性は増えていますということがありまして、そういうことも全部含めてなんですけど、近年の災害の経験を踏まえながら、今後の京都の消防体制強化に関して、市長のお考えをお聞かせいただけますか。

○松井市長

はい、ありがとうございます。今まさに知事がおっしゃったように、このところの能登半島地震でも大きな教訓を我々は得ましたし、このところのいろんな山火事であるとか、いろんな豪雨であるとか、いろんな災害に対して、しっかり広域的な対応が必要だというのは全くご指摘のとおりだと思っております。

これは府の呼びかけもあって、今府南部の9消防本部でですね、京都府南部の消防指令センターの共同運用に向けて、大分議論が進んできて、これは9年度から取組を進める。来年度、8年度には試行的な実施っていうものを、視野に入れてですね、今大詰めを迎えているような調整を9消防本部で実施させていただいているところですし、まさに京都市はですね府内全域での消防体制の強化という意味では、府の代表消防機関としての役割をしっかりと果たす上でも、これは大事だと思います。

そういう視点で言うとですね、これは長年の懸案というふうに捉えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、消防ヘリコプターについてですね、これまでの府市懇の時代からいろいろ議論をさせていただいておりますけれども、今おっしゃったような大規模林野火災なども頻発しているということもあって、やっぱり消防ヘリコプターの重要性・有効性というのが改めて認識されているところでありまして、我々としてはですね、京都府さんにもご協力いただきながら、府内の消防本部との連携強化、あるいは24時間運航体制の整備なども取り組んでおりまして、府内での消防ヘリの活用も進んでるところであります。

今後、消防ヘリコプターの活動エリアの拡大とか、今2機持っているんですが、今もそうですけど、1つは3、4ヶ月はもう整備に入りますが、2機同時運航ということにはなっていないんですね。だからこの2機同時運航を可能にするためにどんな体制をつくれればいいのか、やはり運航体制。これはもう単にヘリコプターがあればいいというだけではなくて、もちろんパイロットもいれば、整備をされる方々の体制も含めてしっかり強化していかなければならない。そのためには人員体制の強化、あるいは装備を拡充するっていうことが必要になってきてまして、こういった点でですね、その新たな体制での運用面なども併せて今後具体的にさらに検討を進めていけないか。そのときに、京都府さんのご協力をさらに得て進めていくことが欠かせないと思っております、府内全域での消防航空体制の強化の実現に向けて、京都府と共に京都市としても、しっかり力を尽くしていきたいと考えているところでもあります。

○西脇知事

松井市長の考えに本当に賛同させていただきたいと思っております。今年5月にですね、京都府戦略的地震防災対策指針及び同推進プランを改定して、その改訂した指針とプランの中にはですね、他府県、それから関係機関のヘリを円滑に活用するための航空受援体制を、援助を受けるものですね、受援体制を充実強化することということを盛り込んで

おりまして、まさに最近の災害の状況を見ても、ヘリの活用というのは不可欠だと思っております。

それで、それともう1つは京都市の消防は、私は昔から知ってますけど、全国的にも非常に練度も高いし、装備も充実しているということなんで、京都市を含めた京都府域の消防防災体制を強化するためには、先ほど市長からご発言がありました運用面での新たな体制の構築も含めまして、京都市消防ヘリのさらなる有効活用などですね、京都府・京都市が連携して取組を進めて参りたいと思いますので、これは具体的にどういうふうに取り組んでいくのがいいのかということ、是非ともご議論させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○西脇知事

それじゃあ時間の関係で、おそらく最後のテーマになるのかなと思っておりますけれども、最後はですね私の方から、若干ちょっとばくっとした話になるんですけども、京都の本質的な価値とか魅力についてということで、市長と議論したいなと思っております。

私は常々京都の魅力の源泉は、豊かな自然を背景にして、千年を超えた歴史の中で受け継がれてきた、例えば、神社仏閣とか茶道・華道のような生活文化、伝統芸能、それから食、様々な多様な文化が今も人々の生活に根づいていると。しかもこれは、例えば、遺跡のようにならずとこう、ただ保存するというだけじゃなくて、神社仏閣見たら分かりますけれども、現在も宗教的な営みも含めて、営まれてますし、華道・茶道でも生活、行儀事の中に組み込まれたいろんなありますんで、ただこれはよく伝統と革新って言いますけれども、ずっと同じことを守り続けたわけじゃなくて、常に時代に合わせてそれを変革してきたという歴史があります。

それから、それは実は産業を見てもですね、仏具だとか西陣織とか、陶器の技術というのが、それぞれ、世界の最先端の技術を持つ産業を生み出してきたということで、常にそういうことを魅力とか価値を磨き上げてきたということがありますが、ちょっと最近心配するのは、ここのところですね、それら京都の魅力の源泉というのが、非常に急速に消費されているのではないかなというふうに感じております。若干具体的に申し上げないと分かりにくいかもしれませんが、観光でもですね、観光の入込客数が非常に増えてますし、それから消費額も多いんですけども、やっぱり一部では多くの観光客が訪れる中で、京都の歴史とか文化とか、そういうものが、そういう観光コンテンツ化されて大量に消費されているんじゃないかなというようなことを思っております、これはですね、魅力があるからということで、ある意味は消費していただくということなんですけど、ただ、過去の歴史は消費されても、それがさらに維持保存されていくし、もっと発展していく場合もあるし、また新しい価値がそれに生み出されていくというようなことになっていると。

今年7月下旬に京都商工会議所がソフトバンクとか長崎大学と共同で、「日本人の京

都離れ」が起こっているのか起こっていないのかとか、そういうことも含めて実態を調査するというふうにおっしゃっているのは、観光というのは、魅力があるから来るといふことなんで、それが魅力が今どうなっているのかっていうことを調べようと言われたということは、経済界もですね、今言ったような、同じかどうか分かりませんが、同じような方向性での心配、懸念を持っておるんじゃないかなと私は思っていて、そういう点、ちょっと大きな話になるんですけども、市長の方にお考えがあればですね、京都の魅力・価値というものについての現状とか今後の課題とかをお聞かせいただければ。

○松井市長

はい。ありがとうございます。この最後の話題が一番本質的、今までの話も全部大切な話でしたが、最も本質的な問題だと思います。ちょうど、私も、今、京都基本構想案というものを策定し、間もなく、審議会から答申受けをする予定なんですけど、その中でも、今、知事が言わはったことがもうそのままその基本構想の中を通底する考え方だと思うんです。京都の魅力とか価値が何なのかどこに由来しているのか。残念ながら、それはもうたくさんの方々、世界が京都を発見していただいて、たくさんの方がおいでいただいているのは大変ありがたいんですけど、一部、先ほど知事のお言葉を借りれば、京都の魅力・価値の源泉が大量消費されてしまっている。それが一部ちょっとすり減って摩耗しているんじゃないかという問題意識ではないかと。そういう言葉を使われなかったかもしれませんが、そういう問題意識について、私もものすごく共感します。同じような問題意識を持ちます。

もちろん京都というまち、私は不易流行という言葉は、大切な言葉だと思っていて、それは伝統と革新の両立、要するに京都は伝統の上に生きているけど、同時に、それはやっぱり新しい革新的なもので京都らしさを保っていく、京都らしさを保つためには革新も必要だと、そう思っているんですけど、一部、その魅力・価値が大量消費されていって、すり減ってしまっているんじゃないかということについての危機感もあります。そういう意味でですね、そもそも京都のまちの価値、魅力っていうのは何なのかその本質をわきまえて、そしてそれを摩耗させない、むしろちゃんと建設的に将来的に発展させるための京都のまちづくりというのが必要だと思っていて、一番根本のところの京都のまちの魅力が今どうなっているのか、例えば、おっしゃったように観光は本当に京都好きの人たち、コアの京都ファンから見たときに、京都離れが起こってないかどうか、何が、今、京都の魅力であって、何が、それが一部損なわれかねないという状況にあるのか、そこをしっかりと見極めなければいけないし、そのために具体的に言うとですね、根本的な課題をいくつか勉強していかなければいけないと思います。

例えば、インバウンドの方々にたくさん来ていただけてますが、その混雑あるいはその交通面でそれをちゃんと受け止めて、京都を循環してもらうような総合交通政策のあ

り方がどうあるべきか、あるいは京都は研究開発のまちでもあります、その研究開発、あるいは、技能の伝承、今知事がおっしゃったようなですね、伝統を継承するような、例えば働き方っていうのが、そういう研究開発でものすごく打ち込んでいく。我々、京都基本構想の中では、夢中とか感動が溢れるまちにしていかなければいけない。それは夢中っていうのは、要するに、場合によっては寝食を忘れてでも研究に没頭できるような環境、あるいは、師匠から弟子に対して技芸をしっかりと伝えるときに9時-17時で伝えるってわけにいかないんですね。やっぱり、ときには集中してですね、2日、3日とですね、徹底的にたたき込まなければいけない。そういうことが、今、京都の働き方の現状の中で、あるいは、それが働き方だけではない。京都の文化の中でそういうしっかりとした研究開発や、あるいは、技能伝承が行えるのかどうか、そういう問題も含めてですね、総合的な交通政策、あるいは、まちづくりの都市計画のあり方、あるいは、その働き方とか技能の継承のあり方ということをしっかり考えていかなければいけない。ほんまもんの京都というものをどう残すかということについて中長期的に考えないかん。

これをぜひ、知事と私、あるいは京都府と京都市、あるいは産業界ですね、先ほどから子どもの教育を含めて、やっぱり産業界の人材なんかも巻き込みながらしていかなければ、あるいは文化芸術を担っていく方々の声も聞いていかなければいけない。そういうオール京都ですね、しっかりとした、本質的な課題。これは、1年2年では解決できないかもしれないけど、ここを今、認識し、現状認識し、問題認識をして、そして、より長期のまちづくりに向けて何が必要かということを考えるような勉強会をぜひ一緒に。可能だったら、経済界の方々にも。あんまり何か形式、形から入るというよりは、自主的な対話をまず始めていければありがたいかなと思ってます。

○西脇知事

ありがとうございました。若干、誤解のないように言っときますと、今ですね、別に京都府・京都市の行政だけじゃなくて、京都の価値を磨き上げたりとか積み上げていく行為はたくさんやってましてですね、例えばアートだって、結局現代アートっていうのは今まであんまり京都の中ではそれほどですね、蓄積がなかった、蓄積はあったんですけども、そういうイベント化しているというものもあります。それから、例えば我々、けいはんな学研都市なんていうのはですね、ポスト万博シティだったからより価値を高めていこうとか、そういう、当然価値を高める行為も行われていると。非常にばくっとした壮大な話になったんですが、観光を例にとれば、まさにお話されたように非常に分かりやすいということもあるし、これは常にそういう京都の価値の源泉が今どうなって、それを今後どうしていくのかと、それを考えとかないと、だんだんだんだん衰退していくんじゃないかっていう心配も生まれてくる。そういうことをある程度、議論していく。しかも、それをきちっとその魅力をもし分かれば、その発信の仕方とか、いろいろ問

い直さなければならぬことはたくさんあるというふうに思っておりますので、これは市長もおっしゃいましたけど、経済界だけじゃなくて、京都を担っておられる多様な主体の皆様とも取組が必要だということなんで、このテーマについて、今日は入口ということなので継続的にですね、ぜひ議論をさせていただければありがたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○西脇知事

それでは、予定の時間になりましたので、意見交換はこれまでとさせていただきます、途中の京都版ミニ・ミュンヘンのところで申し上げましたけれども、京都版ミニ・ミュンヘン」につきましては、特に今年度、まさに梅小路公園で一緒にやるってことになってますので、この梅小路公園での京都版ミニ・ミュンヘンのモデル実施を契機に、多様な主体の参画や府市が実施する子育て、教育、産業関連施策との連携を強化することによって、京都版ミニ・ミュンヘンの取組をさらに深化、深めるですね。深化させることということ合意事項とさせていただきますと思ひます。市長何か締めにあたってのご発言があればよろしくお願ひします。

○松井市長

知事の締めの前に、私の締めのご挨拶をさせていただくならば、この京都版ミニ・ミュンヘンもそうだと思うんですが、やっぱり先ほど知事がおっしゃった、京都の根源的な価値・魅力というものをもう1回、我々は再確認をしていきたい。その時に映画のときでも話をしましたが、もう華やかなスポットライトを浴びるのはもちろん映画監督、あるいは研究開発の分野でのノーベル賞の研究者、そういう方々の知恵とか、知識、あるいは研究、それぞれ非常に大事であります、そういう方々と同時に、いろんな京都のまちをこれまでの京都のまちをつくらせてきた伝統的な職人さんであるとか、アーティストであるとか、あるいは、本当のまちの長い老舗の生業のようなものの中に潜む京都の生活文化であるとか、そういったものがたくさん京都には魅力・価値の源泉があります。

ただ、そういう源泉の中には、ちょっと高齢化してですね、さっきの職人さんなんかでも、もうあと5年、10年経ったら、いなくなってしまうわ、引退されてしまって、そのあとの後継者がいないというようなケースもあります。

しっかり我々は京都の価値っていうのはどこに根源があつて、どういう人材が京都を支えてきたのかっていうことをもう1回掘り起こしてみ、そしてそういうものを、将来、さっきの京都版ミニ・ミュンヘンもそうだと思うんですが、将来の若い世代に繋いでいく。そういう若い世代ですね。小学生、中学生に繋いでいくっていうか、途中に学生もいます。それからそれをサポートする社会人もいます。

我々自身が、もう1回生涯学習の機会を捉えて、そういうすばらしい京都を支える研

究、科学、文化、芸術、職人芸、あるいは、本当にまちの生業、そういったものの価値を問い直していきたい。

そして、それを次の時代に繋いでいきたい。その取組を行うことが、私はこれからの京都市政の一丁目一番地だと思っているところでありまして、今日のお話の中にはそういう、一丁目一番地の各論としての京都版ミニ・ミュンヘンのお話とか、それぞれアートの分野のコラボレーションとかいろんなものがありましたし、それをさらに、先ほど知事がおっしゃったような形ですね、京都の根源的な価値は何か、それをどうやってさらに磨いて次の時代に繋いでいくのか、そのためのまちづくり都市計画どうあるべきか、公共交通をどうあるべきか、いろんなことを議論する根源的な勉強会というのをぜひ、まずは府と市だけでも開催し、その時にはできたら、知事がおっしゃったようないろんな方々の知恵、経験を巻き込んでいけたらありがたいと思います。今日はそういう意味では、本質的なテーマをご提示いただきまして誠にありがとうございました。

○西脇知事

市長どうもありがとうございました。それでは本日のトップミーティングにつきましては、以上とさせていただきますと思っております。

本年度2回目の開催となりまして、市長もおっしゃってましたように、京都府、京都市にとって、課題となっております重要なテーマにつきまして、意見交換することができたと考えております。

今日の議論を踏まえて、ばくっと事務方に言うと気の毒ではあるんですけども、事務方の皆さんにはですね、各分野それぞれの取組について、それぞれの意見交換を踏まえて、ぜひ具体化をしていただきたいというふうに思っております。

次回につきましては、検討が進んだ段階で改めてお知らせしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。